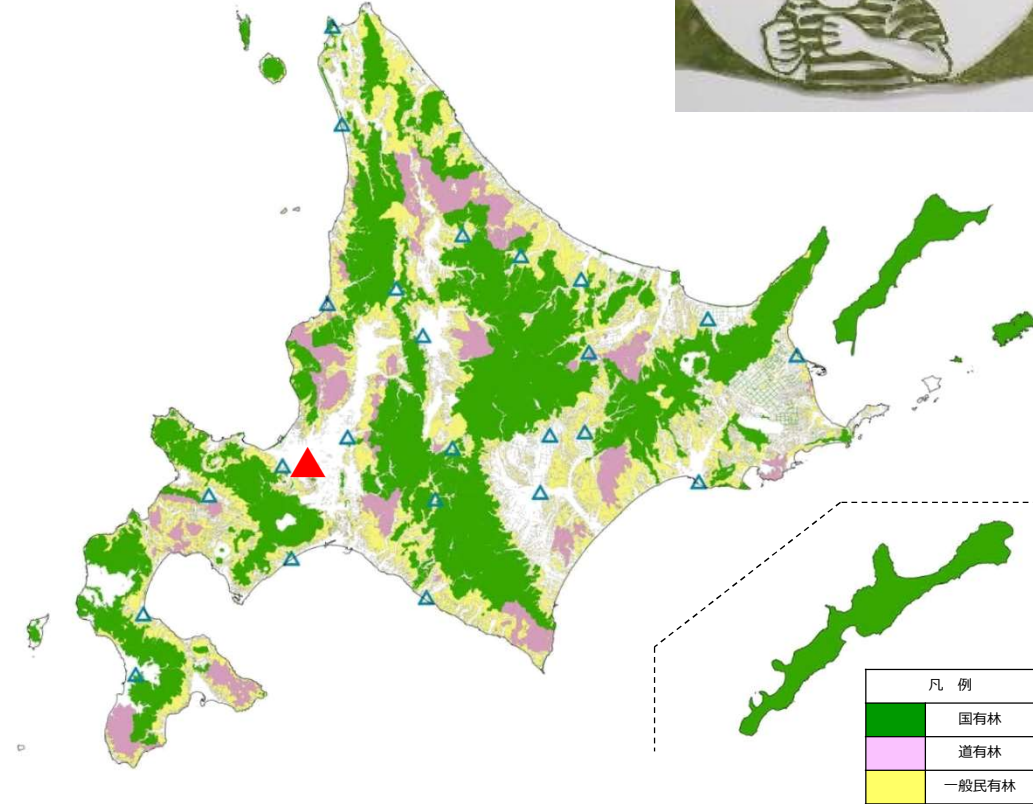


国有林における森林認証の取組み

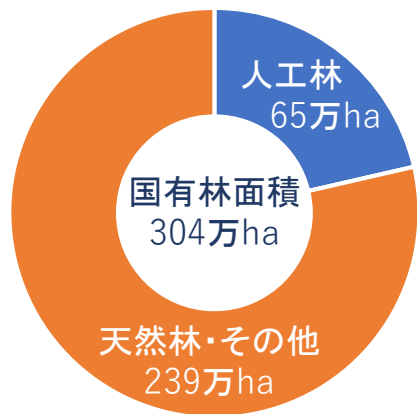
北海道森林管理局 計画課長 佐野由輝

1. 北海道森林管理局の概要

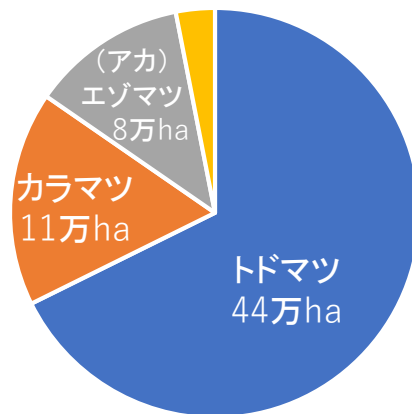
- 北海道の国有林は約304万ヘクタール
- 北海道の国土面積の39%、森林面積の55%を占め、脊梁山地の大部分をカバー（これらは北方領土を含まない値）
- 8割近くが天然林であり、希少な野生生物が生息するなど、学術的にも価値の高い森林が多い
- 一方で、戦後植栽されたトドマツやカラマツなどの人工林資源が成熟
- 公益重視の管理経営の一層の推進と、林業の成長産業化への貢献が期待されている



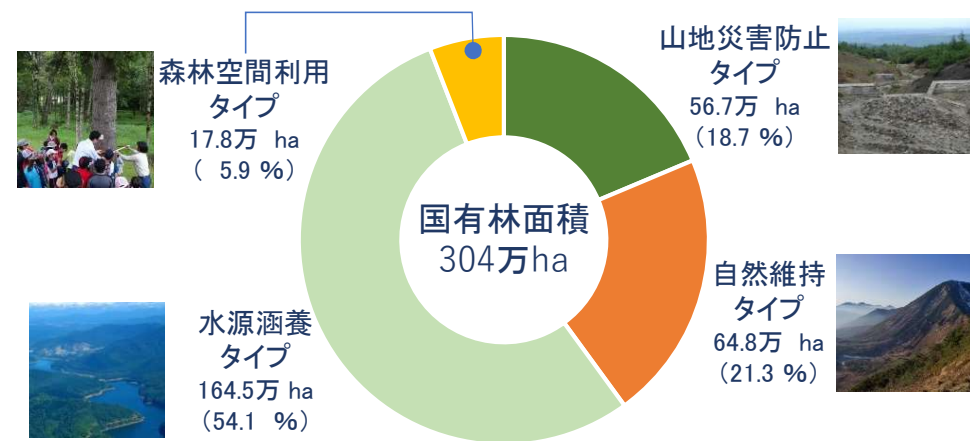
人工林・天然林別面積



人工林の樹種別面積



機能類型別面積



2. わたしたち森林管理局が取り組む森林づくり

北海道の国有林 304万haのうち **65万haの人工林** これからの森林づくり

過去

戦争前後に、
たくさんの木が伐られて、
日本中にはげ山が広がった。
そのため台風や
大雨による災害が多発したのよ。



昭和30年代になると経済が成長して、
たくさんの木材が必要になったわ。
北海道でも山奥の天然林を伐採して、
カラマツやトドマツなどの針葉樹をたくさん植えたの。

現在

60年経って、植えた木がこんなに大きく成長したよ。
でもよく見てごらん。
植えた木の間にも広葉樹が自然に生えている森林もあるよね。
今の森林の姿こそが山が出した答えなんだ。
これからは、山に教えるを請う姿勢で、
100年先、200年先を見すえた森林づくりが必要だね。



これからの森林づくり

植えた木が元元よく育っていたら、
伐って、使って、植えて、育ててを繰り返しながら、
色々な年齢の木が生えている森林にしていくのよ。
伐った木は、みんなの生活の中で使うことができるね。
植えた木の間にも広葉樹がたくさん生えていたら、
植えた木といっしょに広葉樹も育てていくの。
広葉樹も生活の中で色々使われているからね。



CO₂
CO₂
成長途中の木は
二酸化炭素の吸収も盛ん

植栽した
針葉樹と
広葉樹が
混じって
生育

木材は私たちの
生活の中に利用

水をたくわえ
生き物たちのすみかに

レクリエーションの場

色々な種類の木が
元気に大きく成長

植栽した針葉樹
の成長が良好

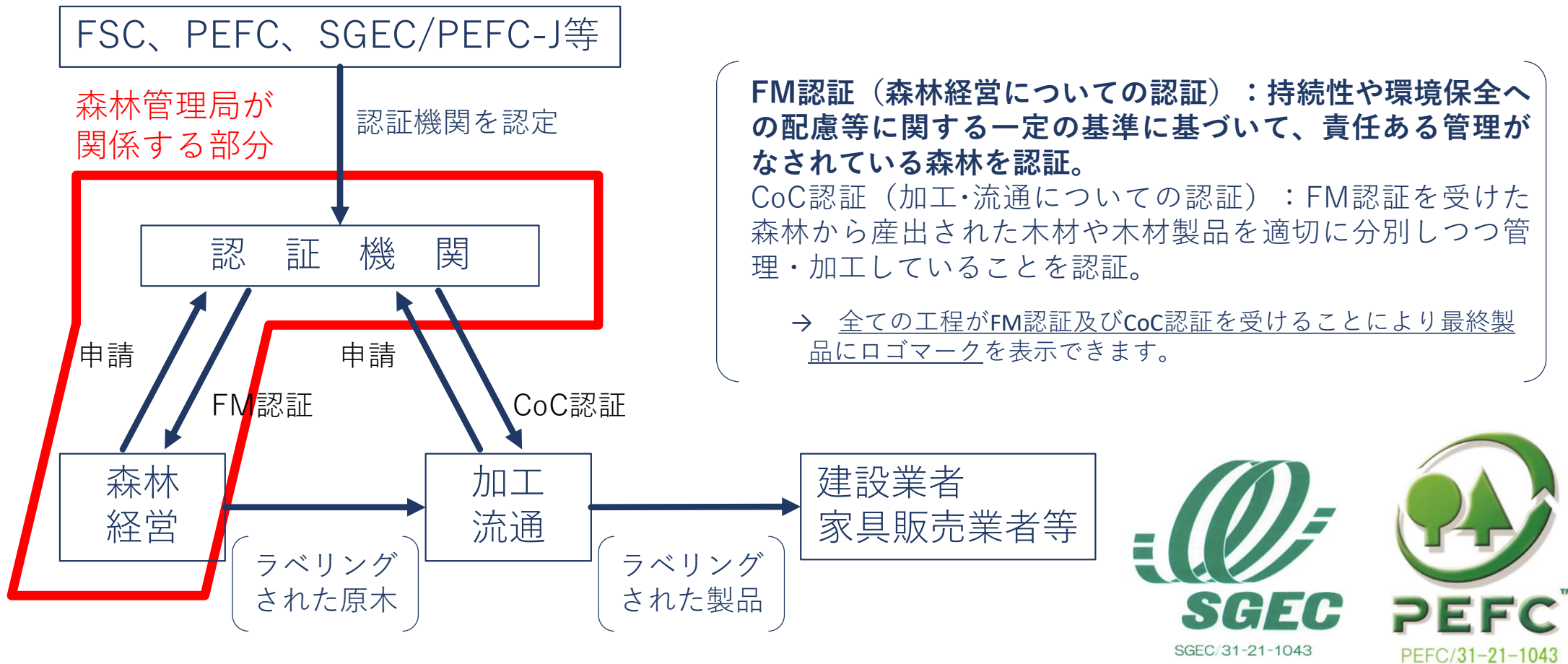
木材を循環して利用できる持続可能な森林

いろんな森林のおかげで
わたしたちの生活が
守られているんだね！



3. 森林認証制度の概要

- 森林認証は、
 - ① 第三者機関が、森林経営の持続性や環境保全への配慮等に関する一定の基準に基づいて森林を認証するとともに、
 - ② 認証された森林から産出される木材及び木材製品を分別し、表示管理することにより、消費者の選択的な購入を促す仕組みです。
- 国際的な森林認証制度としては、F S C 認証とP E F C 認証の2つがあり、我が国独自の森林認証制度としてはS G E C 認証があります。



4. 森林管理認証の取得状況

SGEC



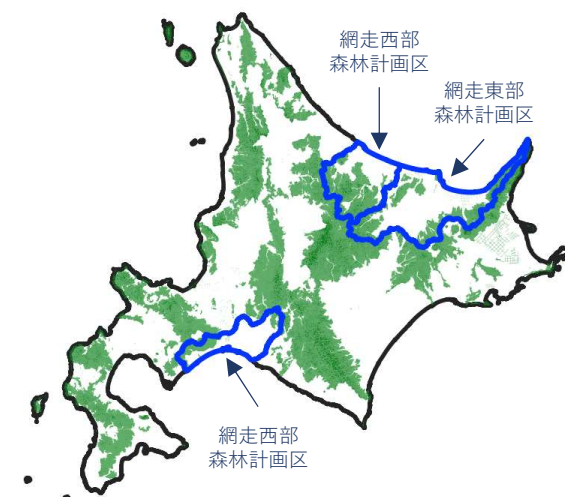
森林計画区	森林管理署	森林管理認証面積		所在市町村	取得時期
		地域全体	うち国有林		
網走西部	網走西部署・西紋別支署	324千ha	191千ha	遠軽町、湧別町、滝上町、紋別市	平成19年12月
網走東部	網走中部署・網走南部署	304千ha	243千ha	置戸町、北見市、佐呂間町、小清水町、清里町、大空町、網走市、美幌町、斜里町、津別町	平成25年12月
胆振東部	胆振東部署	46千ha	20千ha	むかわ町	平成25年12月
合計			454千ha		

FSC

森林計画区	森林管理署	森林管理認証面積		所在市町村	取得時期
		地域全体	うち国有林		
上川北部	上川北部署	7,634ha	503ha	下川町	平成15年8月

(参考) 他局における森林認証の取得状況

認証の種類	森林管理局	地域	森林管理認証面積	取得時期
SGEC	九州森林管理局	球磨川流域	37千ha	平成19年3月
FSC	関東森林管理局	天竜川(浜松市)	5千ha	平成25年9月
FSC	四国森林管理局	四万十川(禰原町)	0.3千ha	平成12年10月



5. 認証材の供給量



網走西部計画区

単位：千 m^3

年度	主伐	間伐	計
平成28年度	44	96	141
平成29年度	49	108	157
平成30年度	28	115	143
令和元年度	56	122	178
令和2年度	52	104	156
計	229	545	774
年平均	46	109	155

網走東部計画区

単位：千 m^3

年度	主伐	間伐	計
平成28年度	52	202	255
平成29年度	77	184	261
平成30年度	107	188	295
令和元年度	83	190	273
令和2年度	72	2	74
計	391	767	1,158
年平均	78	153	231

胆振東部計画区 (むかわ町のみ)

単位：千 m^3

年度	主伐	間伐	計
平成28年度	0	6	6
平成29年度	0	4	4
平成30年度	0	8	8
令和元年度	2	5	6
令和2年度	1	2	3
計	3	25	28
年平均	0.6	5	6

収穫量で年平均387千 m^3 の供給

- ・ 樹種別割合としては、トドマツ7割、カラマツ1割、(アカ)エゾマツ1割未満、広葉樹1割。
- ・ 国有林材の販売先における認証材の動向については、把握が難しい。

6. 令和3年度現地審査の様子



【オープニングミーティング】



【間伐作業現場】



【生産土場】



SGEC基準文書3「SGEC持続可能な森林管理－要求事項」に基づく**現地確認事項の基準1から7**により、各種関係書類の確認、各種事業の作業現場の確認及び利害関係者へのインタビューを実施。

【魚道工事現場】



【木育関係者へのインタビュー】



【固定プロット】



§ 現地確認事項の事例 1 「基準 2 生物多様性の保全」



- ① 生物多様性の保全に関する管理方針
- ② 対象森林内で生物多様性の確保に重要な構成要素の保護・保全に関する管理方針
- ③ 絶滅危惧種等及びその生息地の保護・保全状況

①管理方針

計画上での取扱い

- ・ 森林生態系の種及び遺伝子の保管庫としての機能
- ・ すべての森林は多様な生物の生育・生息の場
- ・ 営巣、餌場、隠れ場として重要な空洞木・枯損木は保残

②構成要素の保護・保全

保護林制度・通達

- ・ 森林生態系保護地域
- ・ 生物群集保護林
- ・ 希少個体群保護林
- ・ 溪畔周辺の取扱い
- ・ イトウ、シマフクロウ、クマゲラ等

③種等の保護・保全

モニタリング調査

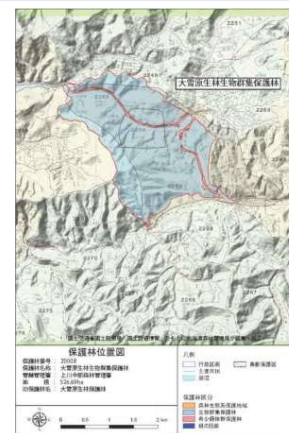
- ・ 保護林管理方針書
- ・ 保護林モニタリング調査マニュアル
- ・ 生物多様性保全アドバイザー



餌場に訪れるクマゲラ



シマフクロウ希少個体群保護林



保護林管理方針書（抜粋）



保護林モニタリング調査マニュアル



- ① 伐採は、持続的森林経営の理念に基づき計画的に行われ、伐採方法は原則として非皆伐又は小面積皆伐
- ② 更新は、施業履歴を参照しつつ適地適木の原則に基づき行われ、その後適正な保育及び間伐
- ③ 山火事、気象災害に対する適切な予防と被害への対処

① 伐採

一貫作業システム

・小面積皆伐（更新伐（誘導伐））、大型機械地拵、コンテナ苗の植付までの一連の作業を一貫契約し、効率的に育成複層林へと誘導



育成単層林で小面積皆伐を実施

②更新

天然力を活用した多様な森林づくり

・人工林の主伐箇所において、林内に生育している広葉樹等を保残することにより、様々な樹種、林齢からなる森林へ誘導

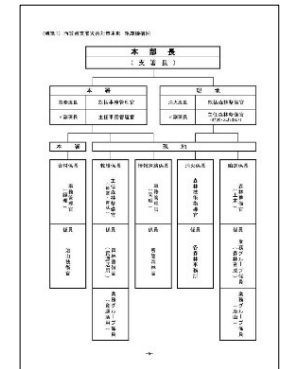
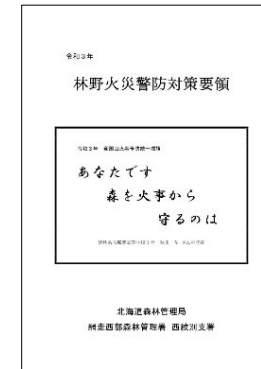


広葉樹が主となった人工林の一部
面的複層林の一部として育成

③山火事対応

林野火災警防対策要領

・「入林者への啓発」、「国有林野の事業現場における林野火災防止対策の強化」を予防対策重点事項として規定



林野火災警防対策要領
(組織機構図)

§ 現地確認事項の事例3 「基準5 持続的森林経営のための法的、制度的枠組」



- ① 森林管理に係る地元住民等の意見陳述の機会の設置及び公正な解決を図る手順（説明会の開催）
- ② 上記と併せて、FPICの確保
- ③ 労働安全に関して必要な訓練と指導（労働安全の確保）

①説明会の開催

地元意見交換会

・5年毎の地域管理経営計画等の策定にあたり、地域の皆様からのご意見・ご要望を伺う機会となる地元意見交換会を開催し、その結果をホームページに公開



地元意見交換会

②FPICの確保

管内概要等

・地域のアイヌ協会等に認証取得署の主な事業や森林環境教育等の取組についてとりまとめた管内概要を毎年度郵送するとともに、ご意見・ご要望等をうかがう機会を設定



管内概要（表紙）

②労働安全の確保

健康安全管理体制等

・職員には、「健康安全管理計画書」
・請負事業体には、署長等による「現場巡視活動」や「労働基準監督署等との合同パトロール」



労働基準監督署との合同パトロール
（道内他地域）

§ 現地確認事項の事例 4 「基準 6 持続的森林経営のための法的、制度的枠組」



- ① 市民に自然に触れ合う機会・場所の提供（森林環境教育）
- ② 森林レクリエーションや景観の維持等に配慮した森林管理の状況（景観の維持）
- ③ 文化的・歴史的に重要な遺跡や資源・社会的に価値の高い森林が保護の状況（史跡名称等）

①森林環境教育

森林講座

・豊かな森林環境を子どもたちに学習などのフィールドとして提供する「遊々の森」や、国民の皆様に森林づくり活動のフィールドとして提供する「ふれあいの森」の設定

②景観の維持

風致探勝林等

・観光的に魅力ある高原、キャンプ場や森林公園等の施設を伴う森林など、国民の保健・教育的利用等に適した森林は、保健・レクリエーション機能の維持増進を図る森林として整備及び保全を推進

③史跡名勝等

史跡名勝等

・史跡、名勝等の所在する森林やこれらと一体となり優れた自然景観等を形成する森林は、潤いある自然景観や歴史的風致を構成する観点から、文化機能の維持増進を図る森林として整備及び保全を推進



遊々の森・わんぱくの森での活動



風致探勝林



擦文文化の集落遺跡
(オホーツク文化期の住居跡)

§ 森林の循環利用とSDGs



育てる

植えた苗木を健全な森林まで育てるためには、下刈や除伐といった作業を欠かすことができません。

現在は人力による作業が主体なので、軽労化や低コスト化が課題となっているため、下刈の機械化や成長の早い苗木を導入した下刈回数の低減などに取り組んでいます。



自走式刈払機



大型機械による下刈

植える

森林資源を循環して利用していくためには、伐採した跡地に新しい苗木を植えるなどの更新作業が必要です。

伐採・搬出に利用した高性能林業機械を活用して跡地整理をしたり、植栽する苗木にコンテナ苗を利用するなど、効率的な作業の実施に取り組んでいます。



コンテナ苗



伐る

利用期を迎えた森林は、間伐や主伐といった伐採作業によって収穫され、木材が生産されます。

高性能林業機械を用いて生産性・安全性の向上を図ったり、効率よく作業ができる林内路網を整備して、安全で効率的な作業の実施に取り組んでいます。

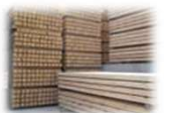


利用する

森林から生産された木材は、林業専用道などを通して、製材工場や製紙工場などに運搬され、身近な製品に加工されます。



木柱を用いた土木工事



木製品



CLTを使用した住宅



紙製品



木質バイオマス燃料

7. まとめ



- 国有林では、「森林・林業基本計画」等に踏まえ、森林計画区単位で5年ごとに「国有林の地域別の森林計画」、「地域管理経営計画」、「国有林野施業実施計画」の3つの計画を次のプロセスを経た上で策定している。この計画に基づき、各種事業を実行することにより、森林管理認証の基準を満たしているものと考えています。

策定前年度まで	<ul style="list-style-type: none">・ 事業実行結果や森林現況調査結果を森林調査簿に反映・ 各種事業実行等にあたり、市町村を含む地域の方々からのご意見やご要望への対応
策定前年度	<ul style="list-style-type: none">・ 地域の方々からの広くご意見やご要望をうかがう地元意見交換会の開催・ 地域のご意見やご要望を踏まえた署長意見書の提出
策定年度	<ul style="list-style-type: none">・ 公告縦覧・ 有識者懇談会により意見聴取

- 現在、森林管理認証を取得している国有林については、その有効性を検証するための試行的な取組の位置づけとしています。
- 森林認証による審査は、自らの森林経営が適切に行われているかを第三者の視点から見直す意義があるため、既存の認証林での審査対応は、より適切な国有林野の管理経営を行っていくための機会として捉えているところです。